



公益財団法人九州大学学術研究都市推進機構

Organization for Promotion Academic City by Kyushu University



九州大学学術研究都市

知の交流・創造活動を促進する地域科学技術システムの構築

新しい産業イノベーションを創出する環境や水素・ナノテクノロジー・半導体など最先端の研究クラスターが形成されています。

知・住・悠の舞台となる快適空間の形成

伊都キャンパス移転を契機とする新たなまちづくりが進められています。

九州大学伊都キャンパス



福岡市産学連携交流センター (FiaS)



九大新町研究開発次世代拠点 (いとLab+)



有機光エレクトロニクス実用化開発センター (i²-opera)



社会システム実証センター

三次元半導体研究センター



水素エネルギー製品研究試験センター (HyTReC)



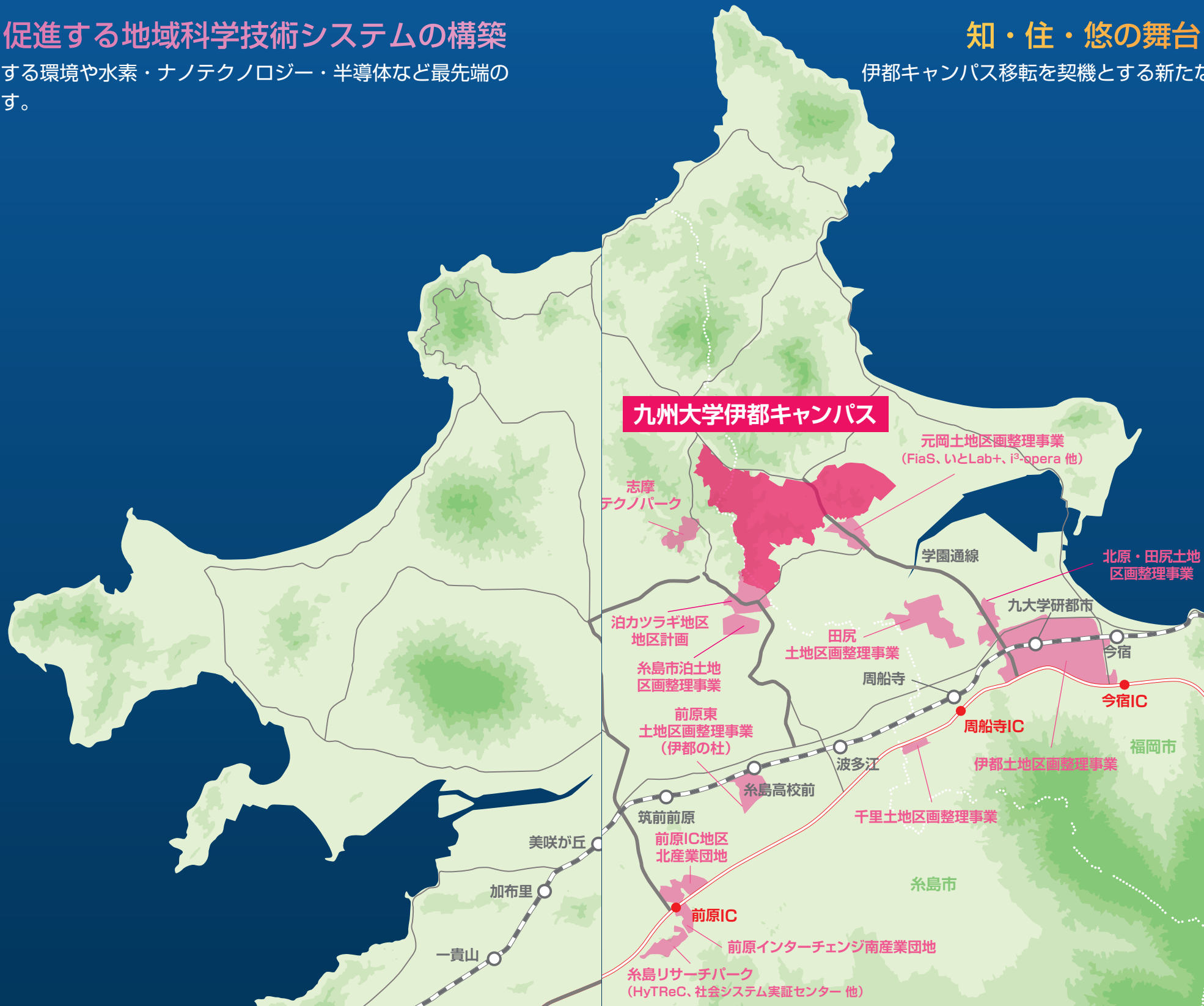
糸島リサーチパーク

前原IC地区 北産業団地

前原インターチェンジ 南産業団地



九州大学伊都キャンパス



元岡土地区画整理事業



北原・田尻土地区画整理事業



泊カツラギ地区地区計画



糸島市泊土地区画整理事業



糸島高校前駅



九大学研都市駅



学園通線



九州大学 学術研究都市 構想

事業 方針

九州大学学術研究都市構想と九州大学学術研究都市推進協議会

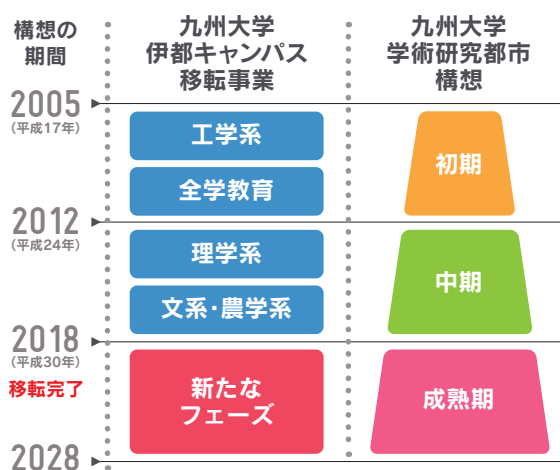
九州大学の伊都キャンパスへの統合移転に伴う大規模なキャンパス構築や大胆な大学改革を支援するとともに、九州大学を中心とした新しい学術研究都市の創造をめざし、地元産学官の総意に基づき「九州大学学術研究都市推進協議会」が1998年に設立されました。

推進協議会は2001年に「九州大学学術研究都市構想」を策定。

産学官が連携し、世界的な「知の拠点」「知的クラスター」づくりに向けて「知の創造・交流を促進する地域科学技術システムの構築」「知・住・悠の舞台となる快適空間の形成」に取り組んでいます。

九州大学学術研究都市の 新たなフェーズにおける事業方針

2018年9月の九州大学伊都キャンパスの統合移転完了を契機に、推進協議会では、整備が進んだ学研都市のハード・ソフトのさらなる活用や今後の社会経済の発展を視野に入れ、学研都市の新たなフェーズにおける10年後のめざす姿を示すとともに、その実現に向けた取組の方向等を示す「事業方針」を2019年1月に策定しました。



新たなフェーズにおける めざす姿

持続的に
イノベーションが創出される
活力ある学術研究都市

先進技術がもたらす
次世代の豊かな暮らしがある
学術研究都市

自然、歴史、文化を享受し、
多様な人々が交流する
学術研究都市

2028 までの目標

ベンチャー
起業

100件

最先端事業

100件

域外交流

500^件/年

① プラットフォーム運営・コンソーシアム促進事業

「脱炭素」「医療・健康」「環境・食料」を重点分野としたプラットフォームから新たな事業化・社会実装の向上に寄与
(A) 脱炭素・エネルギー分野におけるプラットフォーム「九州脱炭素化研究会」運営
(B) 農林水産分野におけるプラットフォーム「農林水産物の輸出促進研究開発プラットフォーム@九州・沖縄」運営及びコンソーシアム組成
(C) 「いとしま免疫村」などライフサイエンス分野のクラスター形成

② 九大学研都市発スタートアップ促進事業

九大研究者、九大発ベンチャー企業及び民間企業の経営人材、投資家等の交流機会創出による資金・人的支援の拡大や自治体と連携したインキュベート施設の利活用促進等によるエコシステムの形成を支援

③ 九大学研都市立地促進事業

九州大学先端科学技術分野（水素エネルギー、有機光エレクトロニクス、ナノテクノロジーなど）におけるセミナー開催、出展活動、先端電子顕微鏡フォーラム等の推進により企業と大学の研究をマッチングし、九大学研都市における企業・研究機関の立地・インキュベート施設等への入居など、企業立地を支援



④ 学術研究都市を実験フィールドとする研究プロジェクトの導入支援

学術研究シーズ調査、企業の研究ニーズ把握を行うとともに、九大カーボンニュートラルキャンパスの実現などの脱炭素社会実現のための取組をはじめとした実証試験・社会実験の導入を支援

先端電子顕微鏡フォーラム

九州大学が保有する最先端の電子顕微鏡等の民間利用を受付けています。

① 情報サービス

電子顕微鏡関連ニュース、技術・製品紹介、研究報告

② コンサルティング

電子顕微鏡関連技術相談、研究者・技術者の紹介

③ 教育・研究支援

電子顕微鏡関連研修、e-ラーニング・遠隔研修用教材、シミュレーター、解析ソフトほか

④ 研究・技術支援

電子顕微鏡・各種機器利用開放・指導



OPACK

九州大学学術研究都市推進機構の活動

① 九大学研都市活性化事業

学術研究都市ならではの学びの機会、賑わいを創出し、九大と地域社会が共生するまちづくりを推進
(A) 九大研究者等による公開講座の開催など、九大学研都市での知的資源を活用した学びの機会を創出
(B) 糸島半島の歴史・自然・文化・飲食などのMICEを支える機能をPRし、来街者の増大など、域外交流を推進

② 交通体系強化事業

交通事業者、九大、自治体等関係機関が一堂に会する会議の開催、モビリティ実証事業の導入促進など



① 外国人留学生人材定着促進事業

インターンシップを活用した交流、求人票提出や採用面接の実施により外国人留学生の活躍の場を広げるとともに定着に寄与する取組を実施

② 外国人研究者・留学生等の受け入れ環境づくり事業

九大、自治体、留学生支援機関等関係機関が一堂に会する会議の開催、留学生交流事業の開催支援など

① 多様なツールを活用した積極的な情報発信

九大学研都市情報の収集、SNSなどのツール及びHPを活用した学研都市の魅力発信など

② 地元経済界と九州大学との交流促進等

九大、経済界の多様な交流を創出するイベントの開催



推進協議会の構成団体は、新たなフェーズにおけるめざす姿の実現に向けてそれぞれの役割を果たしていくとともに、各種プロジェクトへの参画、推進を支援していきます。

OPACKは、推進協議会の構成団体が実施する事業の円滑化を図るための調整機能を果たすとともに、各種プロジェクトの企画・実施・進捗管理など、学研都市構想及び事業方針を推進する中心的役割を担います。各種プロジェクトには多様なメンバーの参画を促します。

推進体制

九州大学 学術研究都市 構想

九州大学学術研究都市推進協議会

- 九州大学
●福岡県
●福岡市
●糸島市
- 佐賀県
●唐津市
●九州農政局
●九州運輸局 ほか
- 経済界
・九州経済連合会
・福岡商工会議所
・福岡経済同友会
・佐賀県商工会議所
連合会
・福岡銀行協会 ほか

進出企業・地元企業・スタートアップ企業
関係機関・研究者・学生
その他多様な人材

OPACK

九州大学
学術研究都市
推進機構

概要

学研都市構想を推進するため2004年に設立された『公益財団法人九州大学学術研究都市推進機構(OPACK)』は、九州大学、経済界、福岡県、福岡市、糸島市で構成された地元産学官連携の総合マネジメント組織です。

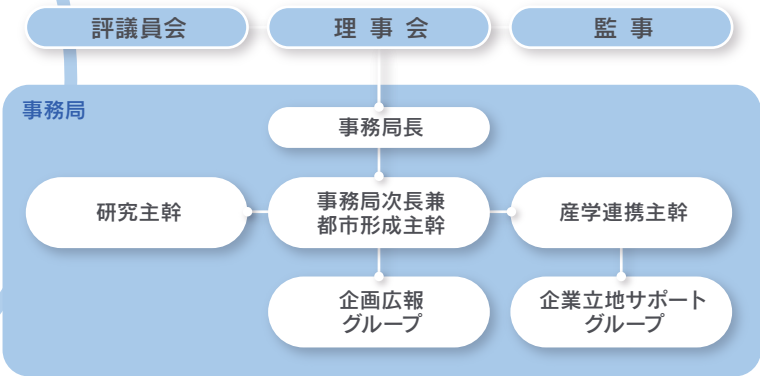
① 設立日

2004年10月1日

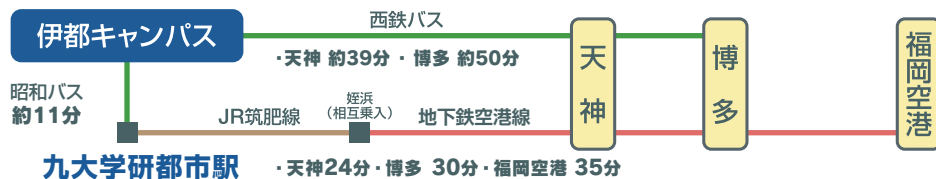
② 財団の概要

- (1) 基本財産
2億円
- (2) 理事長
貫 正義 [九州電力(株)相談役]
- (3) 業務概要
①学術研究に関する広報活動事業
②産学官の共同研究による研究開発
及びその支援に関する事業
③研究機関等の立地支援事業
④産学連携交流支援事業

組織図



九州大学学術研究都市
九州大学伊都キャンパス



◎西鉄バス「天神ソラリアステージ前(2B)」及び「天神北」停留所→直行[急行・九大伊都キャンパス行]

